

# 7/22 国民平和大行進 羽村市を元気に行進

広島と長崎に原爆が投下されて66年。毎年、全国から広島・長崎へ向けて「核兵器廃絶を、戦争のない世界を」と訴えて取り組まれる国民平和大行進が今年も羽村市内を行進しました。

市役所前で開かれた集会では、実行委員会の渡辺正郎さんが「今年の平和行進は、核兵器の廃絶と、原発からの撤退を



暮らしや行政に生かしていきたいと思います」と挨拶しました。

共産党市議団からは倉田まなぶ議員が発言。並木市長から激励のメッセージが寄せられました。



7月29日 羽村市青少年問題協議会に参加。羽村市における青少年の現状等と子どもたちと地域防災について話し合う。ネットを介した不純異性交遊など犯罪に繋がりにくい問題への対応など、多くの課題があることに気づかされる。(倉田)

7月29日 ベトナム水上人形劇をゆとりぎで鑑賞。素朴で大らかな演技に「脳内ベトナム旅行」をたっぷり楽しんだ。途中、米軍機が上空を何度も通過したが、そのことにベトナムの青年は気づいたのだろうか。(鈴木)

# 放射線量を独自調査 羽村市へ砂場の砂入れ替えを要望

「身近な場所の放射線量はどのくらいなのだろうか?」という市民の声に応え、共産党支部と後援会が放射線量測定器を独自に購入し、市内の公園などでの測定をおこなっています。



特に、小さな子どもが砂にまみれて遊ぶ公園の砂場は気になる場所。比較的高い値がでた砂場もあり、後日、共産党羽村市議団は、そうした砂場の砂の入れ替えを市に要望しました。

放射線量測定表(比較的高い値のところ) 測定単位=1時間あたりの $\mu\text{Sv}$

公園名	場所	5 cm	50cm	100cm
どんぐり山児童公園	緑ヶ丘 1-13 一般	0.08	0.08	0.08
	砂場	0.22	0.22	0.22
けやき児童公園	小作台 2-14 一般	0.14	0.14	0.15
	砂場	0.16	0.16	0.15
ペリカン公園	緑ヶ丘 5-14 一般	0.16	0.16	0.16
	砂場	0.16	0.11	0.08
グリントリム公園	羽西 1-3 一般	0.18	0.18	0.15
	砂場	0.21	0.20	0.20

無料法律相談は8月9日(火)、9月14日(水)午後1時半からです。電話でお申し込みください。  
・鈴木 080-1058-9450 ・倉田 080-3460-0064まで。

公園名	場所	5 cm	50cm	100cm
あけぼの杉児童公園	羽加美 1-36 一般	0.12	0.12	0.12
	砂場	0.15	0.15	0.15
上水グラウンド	玉川 2-8 一般	0.18	0.18	0.18
丸山下児童公園	羽 747-17 一般	0.20	0.21	0.18

測定日: 7月24日(日)午後3~5時(晴天、気温30、微風あり)  
ペリカン公園のみ 8月1日午後12時に測定。  
測定器: X - 放射線測定器 プラネックス JB4 0 2 2  
(測定範囲 = 放射線量率 0.01 $\mu\text{Sv/h}$  ~ 99.99 $\mu\text{Sv/h}$ )  
測定方法: 地上5cm、50cm、100cmで読み取り

# 復興支援ボランティア へ参加して 羽村市議団



7月22日~23日、私たち共産党羽村市議団の2名(鈴木たくや、倉田まなぶ)は、東日本大震災で被災した  
倉田市議 鈴木市議 宮城県亶理町への復興ボランティアに

参加しました。参加したのは、一般社団法人「東日本大震災被災地支援の会」が主催したバス・ツアーで、夜10時に池袋に集合して、バスで夜通し高速道路を走り、翌日朝から午後3時までボランティア活動をおこなって、その日の午後10時に池袋に戻ってくる、というものです。

亶理町は、仙台市から15kmほどの海に面した町で、大粒のイチゴが特産品です。震災では、多くの家屋、農地が津波に飲み込まれ、死者は256名に上っています(8/1現在)。約400軒あったイチゴ農家でも、95%の農地が壊滅的な被害に会い、その多くは復興が見通せない状況にあります。

しかし、そのうち1割ほどが、「今年秋の作付けにむけて、

決死の覚悟でがんばる」と決意をし、ボランティアはそうした農家への支援をおこなうものでした。



私たちが行った畑は、海岸線から2 kmほどの地点で、津波にすっかり飲み込まれてしまった場所です。瓦礫がうずたかく積まれているのかと想

像していましたが、道路などに残されている瓦礫はほとんどなく、すっかり片付いているという印象です。これは、自衛隊が数千人規模で入り、一斉に処理をした結果だとのことでした。

しかし、畑の土の中にはさまざまな瓦礫やヘドロが混ざったままです。これをスコップで掘り起こし、取り除いて行く作業が、今回の仕事です。ビニル・ハウスの残骸、近くにある化粧品会社から流れ出たボトルのキャップ、周辺の民家からの日用品、木片など、多種多様なものが掘り出されます。

日頃こうした肉体労働とは無縁のため、すぐに腰が痛くなり、苦しくなりますが、「無理は禁物。自分が被災者にならないように。」とのバスの中での注意にし



たがって、休み休み作業をおこなっていきます。

休憩中に農家のおばさんと話をしてみると、津波に危うく飲み込まれそうになった話、自宅が津波をかぶり傷んでしまった様子などを聞かせてくれました。「4ヶ月経って、ようやく津波の話も笑ってできるようになった。また美味しいイチゴを出荷できるよう、とにかく、頑張るしかない。」との言葉に、支援に来た私たちが逆に励まされる思いになりました。

今回参加したのは39名のボランティアで、そのうち約6割



掘り出された様々なごみ、瓦礫

は女性。単独参加の方も多く、話を聞いてみると、「社会人で、仕事は忙しいのですが、少しでも手助けになればと参加しました。バスでの長時間の移動がつかったですが、

とても充実した活動でした。また、ぜひ参加したい。」とのこと。その真面目さと積極性に感心しました。

震災から4ヶ月以上経ち、道路の復旧や大きな瓦礫の処理などはかなり進んでいますが、今回のような復興支援はまだまだこれからの活動で、たくさんのマンパワーが必要です。

羽村市にも「何か力になりたい」という市民は多くいるはず。そうした市民の思いを集め、できる限りの支援にむずびつけていく仕組みづくり、きっかけ



づくりを提案していきたいと考えています。多くの市民がそうした活動に参加することは、東北の復興はもちろん、これからの羽村市にとっても大切な財産になっていくと思います。

